

滋賀県立守山中学・高等学校 学校訪問報告

日 時： 平成25年9月25日（水） 10:00～12:00

訪問者： 林 直樹 上野智子

回答者： 辻 校長 平野 教頭(高校) 木村 教頭(中学)

1 学校の状況

- (1) 中学からの進学者(内進生)と高校からの進学者(外進生)の違い（生徒の学力、教育課程等）
 - ・教育課程は同じ、定期考査も同じ。内進生は時間の余裕のある分先取りは行わず深く探求している。
 - ・内進生は問題の答えを導くプロセスを大切にし、学問の面白さを実感しているように感じる。
- (2) 生徒の通学地区
 - ・全県一区より募集。地元の生徒が中心である。
- (3) 中学・高校間の交流（会議、特別活動、人事等）
 - ・職員室は同じ。中等部は職員室の真ん中に位置していることで、進学してくる生徒の状況が把握しやすい。
 - ・会議はすべて一緒に行く。
 - ・中・高の校種を超えた授業の受け持ちも現在一部の教科で実施している。
 - ・学校行事は中高すべて一緒に行く（卒業式だけ別）。

2 設置前の準備

- (1) 設置前の広報（説明会やパンフレット）
 - ・小学校には進路指導部がないため、県主催で市民ホールなどを借りて広報した。
- (2) 設置に関わる推進委員会のあり方
 - ・指定された近くの中学と交流・研究を進めた（滋賀県内での中高設置の3校すべてで行われた）。

3 設置による影響

- (1) 保護者、地域、県民の反応
 - ・守山高校は文武両道の学校としてよく理解されており、評判もよく湖西・湖北からの志願者もある。
- (2) 地区内の小中学校、保護者の進学熱への影響
 - ・中高一貫の県立守山中学、立命館守山への進学熱は高まっている。

4 学習指導の取り組み

- ・内進生と外進生はクラスを混合しない。
- ・総合学習においてキャリア教育として「人間探求学」に取り組んでいる。
- ・補習は3年生の夏以降より実施。土曜活用はしていない（部活の時間を確保、学校生活の充実）。

5 中高接続に関わる事項

- (1) 部活動の現状について（指導上の留意点等）
 - ・中学生と高校生は力もレベルも異なり、安全管理上の問題もあるため別々で活動している。
 - ・高校受験がないため、中3の夏以降より高校の部活動へ参加。

6 大学進学状況

- ・国公立大学への進学率が2割から3割へ向上。

7 その他

- ・「絆プロジェクト」として高校生が中学生を教える企画がある。
- ・校舎の1階は中1と高3、2階は中2と高2、3階は中3と高1と配置し、中学生が高校生の姿を見られるよう配慮している。
- ・学校行事や部活動に熱心に取り組む学校生活がとても充実している学校である印象を受けた。